

ほつと人権

—第6号— 平成 18 年 11 月2日

学校支援部 人権教育担当

人権教育授業研究講座がはじまりました。 第1講座は、高知県立高知工業高等学校で行いました。

1 公開授業

人権教育授業研究講座は、人権教育の授業実践力を高めるために、授業研究と参加者相互の意見交流を深めながら、今後の人権教育の充実及び向上を図ることを目的に開催しています。授業を通して、授業者、参加者ともに学ぶことができる講座としてスタートし、今年で4年目を迎えます。

第1講座では、高知工業高等学校の福井さんに、土木科第1学年の国語科の授業を公開していただきました。小説「子供たちの晩餐」の単元の中で、「話す力・聞く力」の育成に視点をあて、生徒同士がペアで話し合う活動を通して、互いに聴き合うことの大切さを学ぶ授業が展開されました。

高知県立高知工業高等学校 教諭

ふくいひろし
福井博史さん



2 実践報告

同校の人権教育の取組について、人権教育主任の竹平さんに報告していただきました。人権教育主任から教材を提供する場合には、資料を渡し、進め方を一方的に担任に伝えるだけでなく、教材の意義や目的を学ぶ事前研修を企画するなど、丁寧な取組を知ることができました。

また、人権アンケートは、人権にかかわる項目だけでなく、教育活動全般に関して状況を把握し、中学校の学習を踏まえて、同校の人権教育のプランを立てるうえで参考にしていました。

人権教育主任 たけひらせいじ
竹平誠司さん



3 参加者の声から



- 生徒たちがいきいきと参加している様子に、日ごろからの先生と生徒のかかわりが見えて、すばらしい授業でした。
- 教科の中で「自分のこと、他人のことを考えて」という視点があり、大変参考になる授業でした。
- 特定の人々が特別な時に行う、特別な学習ではなく、教員が常に意識し、連携し、実践する環境を確認しなければと思います。今日は、その一つのモデルを見せていただき、勉強になりました。

- 高知工業高等学校の計画的な取組、学年や学校全体を通じた取組に感心させられました。年間計画もしっかりしており、具体的なガイドがあるのでホーム主任も助かると思います。
- 昨年度、人権教育便り「スピリッツ」を30号近く発行したという話を聞いて驚きました。発信する「開かれた人権教育部」はすばらしいと思いました。
- 詳しい実践資料とわかりやすい説明、ありがとうございました。

